

りんご栽培技術情報

～中生種以降の収穫前後の管理～

🍏 「ジョナゴールド」は10月中旬に収穫適期を迎える見込みです。

適期収穫に努めましょう！

🍏 「ふじ」の着色管理適期です。作業が遅れないよう計画的に実施しましょう！

1 果実肥大

10月1日時点で平年比100%と平年並みです。

表1 定点観測圃場（陸前高田市米崎）におけるりんごの満開期と肥大状況

品種	満開期					果実肥大 (mm)							
						9月21日				10月1日			
	R4年	平年	差	前年	差	R4年	平年	前年	平年比 (%)	R4年	平年	前年	平年比 (%)
ジョナゴールド	4/27	4/30	-5	4/20	+5	89.2	89.1	89.7	100	91.2	91.3	91.7	100
ふじ	5/4	5/3	-6	4/22	+5	83.6	83.2	80.4	101	85.4	85.3	81.8	100

2 収穫期の目安（中生種～晩生種）

収穫期が近づくと、果実品質が大きく変化します。満開日からの日数、着色、地色、糖度、硬度、デンプン指数、食味などから総合的に判断して収穫時期を決定します。

表2 各品種の収穫の目安

品種	販売時期	満開日起算	糖度 (Brix%)	硬度 (lbs)	デンプン指数	カラーチャート指数
ジョナゴールド	—	145～155日	13以上	13以上	2～3	2～3 (ふじ用地色)
王林	—	160～170日	14以上	14以上	—	—
シナノゴールド	即売用	170日以上	15以上	15程度	1以下	陰光面6以上 (きおう用)
	越年用	150～160日	—	—	1以上	—
ふじ	2～4月末	165～175日	14以上	14以上	1～2	「ふじ」用 4～5
	即売～3月末	175～180日				
	即売～年内	180～185日				

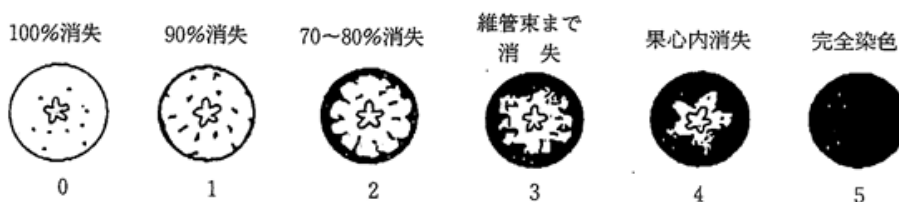


図1 デンプン指数（ヨード・ヨードカリ液によるデンプン指数）

3 「ジョナゴールド」の成熟状況と収穫期

糖度は概ね平年並みですが、硬度およびデンプン指数が平年よりやや高いため、成熟は平年よりやや遅いと推測され、**収穫期は10月中旬頃に迎えるとみられます。**

表3 定点観測圃場(陸前高田市米崎)における「ジョナゴールド」の果実品質の変化

調査日	年次	果実重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン指数	地色 (カラーチャート)
9/11	R4	243	18.2	10.7	4.0	1.5
	前年	228	18.8	11.1	3.5	1.5
	平年	—	—	—	—	—
9/21	R4	301	18.7	11.7	3.3	1.5
	前年	330	15.7	12.5	3.0	1.6
	平年	301	18.6	11.9	3.7	—
10/1	R4	302	18.3	12.9	3.3	1.7
	前年	313	15.8	13.0	2.4	1.8
	平年	323	16.8	13.0	2.9	—
収穫期の目安		—	13以上	13以上	2~3	2~3

※平年値は H19~R3 年の平均(果重のみ H23~R3 の平均)

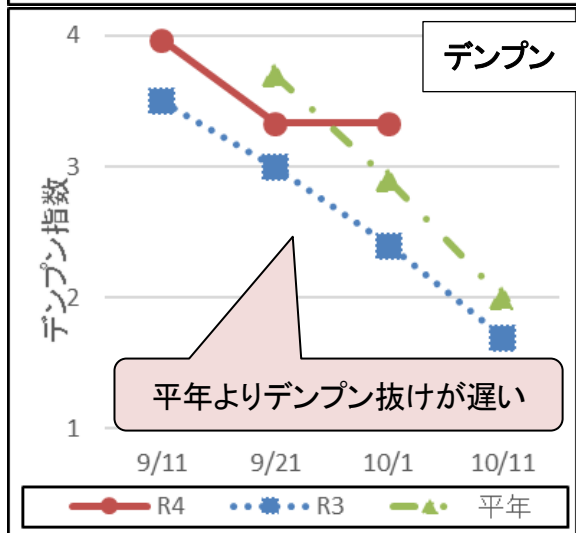
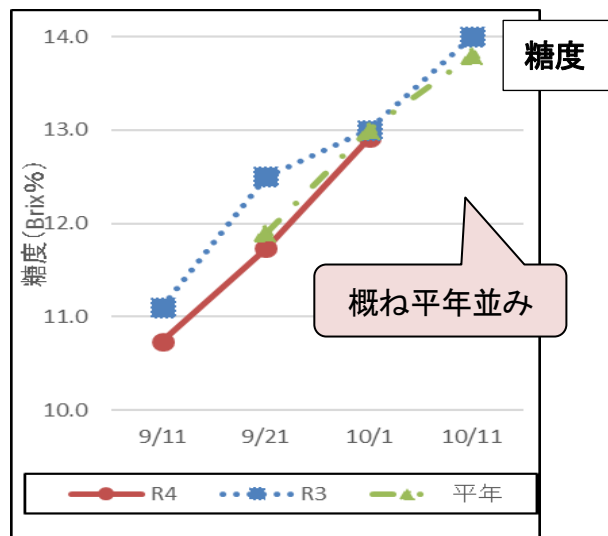
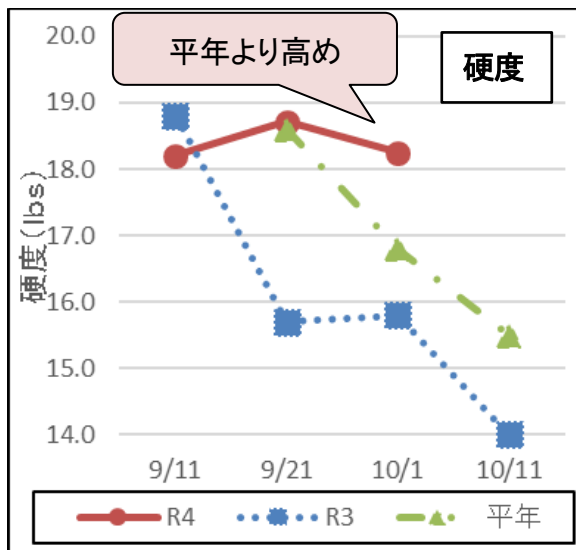


図2 「ジョナゴールド」果実品質の推移

10月の気温は、概ね平年並み～高い予報です。

表4 東北地方1か月予報(仙台湾気象台9月26日発表)

	10/1~7	10/8~14	10/15~28
気温	平年より高い	平年並みまたは低い	平年より高い
降水量	平年より多い見込み		
日照時間	平年より少ない見込み		

4 収穫上の留意点

収穫前に、使用した農薬（殺菌剤、殺虫剤、除草剤、落果防止剤等）の収穫前日数を必ず確認しましょう。

◎ジョナゴールド ～収穫できる果実からすぐりもぎ！～

- ・着色が不揃いのため、収穫できる果実からすぐりもぎします。
- ・収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上がりが発生します。着色を待ちすぎて過度に収穫を遅らせないようにしましょう。

◎王林 ～遅取りとならないよう適期収穫！～

- ・黄色がかってきた果実からすぐりもぎします。
- ・収穫が早すぎると貯蔵後にビターピットや貯蔵やけが発生しやすく、収穫が遅れると果肉の軟化が進み貯蔵性が悪くなるため、遅取りは避けます。

◎シナノゴールド ～年内販売は果面のワックス、食味（酸味）を確認！～

- ・年内販売の場合は、果面にワックスが感じられるようになり、酸味が落ち着いたら収穫を行います。収穫時期が早いと酸味を強く感じます。
- ・収穫が遅れると裂果の発生が助長される恐れがあります。裂果が見え始めた場合は速やかに収穫をしてください。
- ・完熟した果実の長期貯蔵は内部褐変が生じる危険性が高まるため、越年販売する場合は、収穫が遅れないように注意して下さい。

◎ふじ ～販売時期に合わせて収穫を行いましょ！～

- ・果実の地色が緑で、収穫時期が早すぎると貯蔵中にヤケが発生しやすく、収穫時期が遅すぎると内部褐変が発生しやすくなります。
- ・みつが著しく入った果実は早期販売には有利ですが、内部褐変が多くなるため長期貯蔵には不向きです。貯蔵する場合は、みつの少ない果実としましょう。

5 今後の管理

(1) 「ふじ」の着色管理

「ふじ」の着色管理適期です。気温が低すぎると着色が進まないため、作業が遅れないよう計画的に実施しましょう。

なお、葉摘みの量が多いと花芽率が低くなり、みつ入りも低下します。葉摘みは最小限とし、玉回しを中心に着色管理を行いましょ。

表5 「ふじ」の葉摘み時期の目安

葉摘み開始時期の目安	葉摘み時期
収穫予定の30～40日前	1回目 9月下旬頃～
	2回目 10月中旬頃～

果そう葉を中心に日陰になっている部分のみ葉摘みする

玉回しの際、つるの短い品種はキズを付けないように注意

副梢葉・新梢葉はできるだけとらない

◎葉摘み

- ・葉摘みは2回に分けて行います。

1回目: 陽光面が着色し始めたら、果実に直接触れている葉を摘む程度に軽めに行います。

2回目: 半分程度まで着色したら、果実に日陰を作っている葉を摘みます。

◎玉回し

- ・葉摘みと同時に収穫まで2～3回行います。
- ・陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように15～20度の角度に慎重に回します。

(2) 秋肥の施用

花芽の充実や翌年の初期生育を促すなどの効果があります。

- ・貯蔵養分の確保のため、年間施用量の1/3～1/2程度の速効性肥料(硝安や尿素等)を施肥します。施肥量は成木で多くても10a当たり窒素成分5kgを目安としてください。
- ・品種によって施肥時期が異なるため、表5を参考に施肥を行きましょう。
- ・樹勢が強すぎる場合には、施肥量を控える、または無施肥にするなど調整してください。

表6 品種ごとの秋肥の施用時期

品種	秋肥の施用時期	施用量(成木)	種類
早生種	9月下旬～10月上旬頃	年間施用量の 1/3～1/2程度	速効性肥料 (硝安や尿素等)
中生種	9月下旬～10月上旬頃		
晩生種	10月中下旬頃		

晩生種では、施肥時期が早すぎると果実の着色不良などを招く可能性があり、逆に遅すぎると養分吸収がわずかとなるため、10月下旬～落葉前までに実施しましょう。

(3) 除草剤の秋期処理

田植え作業等で春先が多忙な方は、処理することでその時期の作業を減らすことができます。

- ・収穫終了後～落葉前(12月上旬頃)に除草剤を処理することで、翌年の6月上旬頃まで雑草を抑えることができます。
- ・処理が遅れると落葉によって散布ムラが生じやすいです。
- ・収穫後の散布となる秋期処理は、翌年の農薬使用回数にカウントされるので注意してください。



秋期処理なし

秋期処理あり

- ◆スギナ・ギンギシ・タンポポなどの強雑草(多年生雑草) → 吸収移行型の除草剤を選択。
- ◆ハコベやメシバなどの弱雑草(1年生雑草) → 接触型の除草剤を使用するか 吸収移行型で少量散布する。

(4)野そ対策

- ・冬～早春にかけて被害が多くなり、特に若木やJM台木はネズミの食害を受けやすいです。
- ・草生、敷草はネズミが巣を作りやすいので、積雪前に幹の周囲を清耕にし、巣を作るのを防ぎます。
- ・落果して散らばったままの果実はネズミを呼び寄せる餌になるため、拾い集めて処分し、各種忌避剤、殺そ剤による対策も合わせて実施してください。
- ・野ネズミの繁殖期は春と秋が主なので、晩秋と早春の2回駆除を行うことにより効果的に密度を減らすことができます。繁殖力が旺盛で活動範囲もかなり広いので、広範囲にわたって一斉に実施すると効果が高いです。

(5)来年の病害(褐斑病・斑点落葉病)対策

- ・枝葉が過繁茂になると散布ムラができ、多発要因となります。剪定の際は、薬剤の通りが良い樹形を意識してください。
- ・今年発生した褐斑病や斑点落葉病の被害落葉は、翌年の伝染源になります。発生が多かった園地では、りんごの発芽前までに落葉処理を徹底しましょう。

- ・ 落葉を集めて燃やす。
 - ・ 園地外に持ち出す。
 - ・ 園地に溝を掘り(20～30 cm程度)、そこに落葉を入れて土を被せて埋める。
- ※上記が難しい場合は、草刈り機やロータリー耕等により葉を粉碎して土中にすき込む簡易な方法でも多少の防除効果が期待できます。

【秋の農作業安全月間(9/15～11/15)】「農作業 ゆとりと声かけ 二刀流」

【資料利用上の注意】

○農薬は、使用前にラベルの表示事項を必ず確認の上、使用基準を遵守し、農薬使用者が責任を持って使用してください。また、農薬の飛散防止対策に努めてください。

【連絡先】大船渡農業改良普及センター (27-9918)